

認知症への理解を深める

特別養護老人ホームひなたで介護教室



講演する猪股良之先生

3日、特別養護老人ホームひなた（土崎港西3丁目）にて第6回ひなた介護教室が開かれ、約50名が参加した。

特定医療法人仁政精神医学会専門医の猪股良之先生（認知症サポート医・日本老年

患者への理解を深めることを目的に開催された。

社会福祉法人新秋会の住谷一男理事長は「介護教室は、昨

年から開催している。今後も様々なテーマで開催するのでぜひ参加してもいい。介護の利用方法について質問があれば職員が答える」と挨拶した。

猪股先生は「認知症とは脳の異常に由り日常生活が困難になる病気。アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症の3種類が主な認知症疾患である。なかでも、アルツハイマー型は認知症の約7割を占めており、2025年に65歳以上の5人に1人はなる可能性がある。早期発見早期治療が大事、少しでも以前と違うと感覚して」と語った。

認知機能障害として物忘れ（記憶障害）や物事の段取りの障害（遂行機能障害）、言葉の障害（失語）、五感で物事を把握

する」をテーマに講話が行われた。同教室は、高齢化に伴い認知症患者数が年々増加していることから認知症について的一般的な知識を学び、患者への理解を深めることを目的に開催された。

猪股先生は「認知症とは脳の異常に由り日常生活が困難になる病気。アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症の3種類が主な認知症疾患である。なかでも、アルツハイマー型は認知症の約7割を占めており、2025年に65歳以上の5人に1人はなる可能性がある。早期発見早期治療が大事、少しでも以前と違うと感覚して」と語った。

最後に同法人の伊藤功典事務部長は「認知症患者を抱える家族の方には、デイサービスなどをを利用して介護にも気持ちにも余裕をもつてもらいたい」と